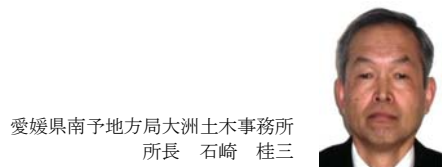


■「効果の見える治水事業」
愛媛県 肱川 広域河川改修事業



愛媛県南予地方局大洲土木事務所
所長 石崎 桂三

肱川は、愛媛県の西南部に位置し、その源を愛媛県西予市の鳥坂峠（標高 460m）に発し、途中、四国山地の 1,000m を越す標高部を源流とする小田川、船戸川など数多くの支川を合わせながら大洲盆地を貫流して、伊予灘に注いでいる愛媛県一の大河川です。

肱川本川は、その名が示すように中流部において“ひじ”のように大きく曲がっていることに加え、流域は、

- ①中流部の大洲盆地に川が集まっている。（手のひらのような、洪水が集中しやすい地形）
- ②河床勾配が非常に緩い。（洪水が流れにくい地形）
- ③大洲盆地から下流は山が両岸から迫り、河口に行くほど平野の広がりが少ない。（洪水が吐けにくい地形）

などの地形的特徴を持っており、これまで堤防決壊や越水により浸水被害を頻発してきました。

特に大洲市においては、平成 7 年の梅雨前線豪雨や平成 16 年、17 年及び平成 23 年の台風による洪水で甚大な浸水被害が発生し、平成 25 年にも、大洲市の菅田地区では 2 度にわたり浸水被害が発生するなど、早期の河川整備が望まれています。また、平成 16 年に国、県で策定した「肱川水系河川整備計画」に基づき、国土交通省とともに堤防整備やダム建設などと併せて、肱川流域の「安全、安心な暮らし」を確保するため、計画的に治水安全度の向上に努めているところです。

県が取り組んでいます肱川流域の河川改修事業は、大洲市の「肱川下流工区」、「久米川工区」、西予市宇和町の「宇和川工区」の 3 箇所で開催しており、このうち、大洲土木事務所で開催している「肱川下流工区」については、全体延長が 10.4 km で平成 12 年度に事業着手、平成 45 年度までの整備完了を目標として計画的に事業を進めています。

「肱川下流工区」の整備手法としては、下流地区の水位上昇を考慮し、当面は一部区間を無堤として残す「霞堤方式」で整備を進め、整備完了時には築堤で締め切る予定としています。

現在は、「肱川下流工区」内にある 11 地区のうち、平成 26 年度に最上流の「池田成見地区」が概成し、平成 28 年度（今年度）は、「阿部板野地区」が概成する予定です。今後、順次下流に向けて事業進捗を図っていくこととしております。

今後も、引き続き関係機関や地元住民の協力をいただきながら、残る地区の整備を推進し、肱川流域の浸水被害を解消したいと考えています。



平成 7 年の「肱川下流工区」の浸水状況



「池田成見地区」で完成した築堤



■母なる川「肱川」を未来に

しみず ひろし
大洲市長 清水 裕



大洲市は、県庁所在地である松山市から南西に約 50 km、車で約 1 時間のところにあり、人口約 4 万 5 千人のまちです。市の中心部を県下最大の河川である「肱川」が流れ、瀬戸内海へと注いでいます。藩政時代は、六万石の城下町として栄え、その風情が残る町並みや鶴飼い、肱川より眺める大洲城、臥龍山荘、富士山などの景観により、「伊予の小京都」「水郷大洲」と呼ばれています。



肱川より眺める大洲城と富士山

肱川は、勾配が緩く、豊かな水量と緩やかな流れが特徴的な河川です。かつては、重要な貨物輸送路として利用され、また、沿川では、肱川からもたらされた肥沃な土壌によって農業が盛んに行われるなど、市民は、肱川から数多くの恵みを受けてきました。

反面、地形的特性からひとたび大雨が降れば「暴れ川」に豹変するため、度重なる水害に悩まされてきました。平成 7 年洪水では、浸水家屋 1,000 戸を超過する甚大な災害が発生し、これを受け、激甚災害対策特別緊急事業により再度被害防止のための堤防整備がなされ、大幅に治水安全度が向上しました。しかし、平成 16 年・17 年・23 年に観測史上 1 位～3 位の水位を記録する洪水があり、この 10 数年間で 3 回も甚大な浸水被害が発生しました。

このような中、平成 16 年に河道整備、山鳥坂ダム建設、鹿野川ダム改造を三本柱とした「肱川水系河川整備計画」が策定され、国・県において事業が計画的に推進されており、大洲市としても円滑に事業推進が図られるよう積極的な連携・協力を努めているところであります。

ご紹介の県管理区間での肱川広域河川改修事業の「肱川下流工区」については、上流から順次堤防整備を実施しており、整備済み区間においては、上流からの洪水による、農地及びビニールハウスの流出被害が解消されております。また、市道天眞線宇津橋（旧板野橋）の架替工事が完了したことにより、肱川の増水時に通行止めになることなく、池田成見地区の住民の避難路として利用できるようになっています。



架替工事が完了した宇津橋

しかしながら、「肱川下流工区」の整備については、下流の国管理区間の整備完了後に堤防締め切りを行う必要があることから、当面の間、下流に影響を及ぼさないよう「霞堤」による整備が進められており、まだまだ安全とは言えない状態です。

これまでの国・県・市による治水事業により、治水安全度は、少しずつ向上しておりますが、今後も治水安全度を早急に向上させるよう国・県と連携して事業を推進していきたいと考えております。

川は、生命を生み出し、産業を育み、そして集いの場となり、人々に癒しと和みを与えてくれます。大洲市の営みは、いつの時代も肱川とともにあります。今後も、肱川が未来にわたって市民から愛され親しまれる「母なる川」であり続けるよう、治水対策をはじめとする課題解決に取り組んでいきたいと考えております。